

[006]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/7183565>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 6, 2024-07-16. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

巻頭言

環境研究・教育の「総合知」を目指して



センター長 三谷 泰浩

2023 年度より附属環境工学研究教育センター長を仰せつかりました。どうぞよろしくお願ひします。

附属環境工学研究教育センターは、2018 年 4 月に新たに設置されたセンターですが、5 年目の 2023 年度末で各研究ハブの研究ユニットによる研究課題がすべて時限である 5 年目を迎えたことから、本センターの規定により評価を実施し、2024 年度に新たに組織を改編するとともに研究課題についても見直しを図りました。その結果、出光研究室、原研究室、藤光研究室が本センターから抜け、新たに守田研究室、石田研究室、沖部研究室が参画するとともに、島岡研究室は、中山先生を中心にした研究室となり、新たな組織・研究課題のもと研究・教育に取り組むことになりました。

九州大学では、「Kyushu University VISION 2030」を策定し、「総合知で社会変革を牽引する大学」を実現するためにビジョンを明らかにしています。このビジョンは、今後 10 年間の本学の方向性、方針を示すものであり、この中では、九州大学が 2030 年に向けて目指す姿として、多様な「知」と「人材」を結集し、新たな価値創造の基盤となる研究とイノベーションの創出を牽引し、自然科学系と人文社会科学系、さらにはデザインを加えた知による「総合知」によって、社会的課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」を目標としています。

環境に関する研究は、様々な分野の研究者が集い、多様なアプローチによる自由闊達な研究と、それらが基盤となって生み出される先端研究や、未来を拓く探求心旺盛な学生を育てる教育により成し遂げられるものと考えられ、本センターが目指すべき方向性と合致していると思われまます。そのような意味で本センターに集まる「総合知」を活用し、新しい価値を創造し、研究教育資源の発展に繋がるという好循環を生み出すイノベーションのシステムを形成することが私たちに課せられた使命ではないかと思ひます。

本センターでは、これからも広い意味での環境問題の解決を通して、持続可能な社会の構築に寄与する研究・教育活動を今まで以上に活発に取り組む所存です。皆さま方におかれましては、本センターの活動に対する更なるご支援を賜りたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。